

「罪と怒りからの解放」

出エジプト記  
マタイによる福音書

第20章 12節～17節  
第5章 33節～37節

説教 岡村 恒牧師

主イエス・キリストは山上の説教で『十戒』の話なさいました。21節からしばらく、同じ言い方が繰り返されます。あなたがたはこれまで律法について聞いてよく知っており、それを守ろうとして生きてきた。しかし私が言うことは違う、と主は語りかけられます。殺人、姦淫、離婚、誓い、復讐、敵を愛するということが取り上げられ、神との関係について新しい光を当てて話されました。新しい教えや、律法の再解釈ということではなく、元々神がお語りになったことを、もう一度丁寧にご自身の口で言い直されたのです。それは、私たちが本当に解放され、本当の自由を得て生きることができるといふ神の約束でした。

私たちはすぐに聖書をひっくり返して読みます。聖書を開く度に『私は一体どうしたら良いか』、『私が神に何をしたら良いか』を考えます。そして繰り返し失敗して、挫折を味わいます。しかし聖書には、『神が一体私たちに何を下さったか』が書いてあるのです。神がユダヤ人に十戒をお与えになった時、まずはじめに、「わたしはあなたの神、主であって、あなたをエジプトの地、奴隷の家から導き出した者である」(出エジプト記 20章2節)と語りかけられました。まず初めに神が私たちが愛し、私たちが解放し、本当の命を生きる者にして下さった。だから、私たちは神の愛に答えて生きたいと願い始めるのです。

新約聖書には、神を知らず、神の敵であり、神に祈ることさえ知らなかった私たちのために、神のひとり子主イエス・キリストが身代わりとして十字架にかかり、私たちが死と滅びから解放して下さい、と書いてあります。主は言われます。『私はあなたの救い主だ。あなたを、死と滅び、絶望から解放した者だ』。私たちが何かをして神に喜ばれ、自分の救いや祝福を神からご褒美のようにいただくのではありません。私たちは何ひとつ差し出すことができず、何ひとつ神に喜ばれるようなものを持ち合わせていないのに、神が一方的に私たちひとりひとりを愛し、御心に留めて、ひとり子イエス・キリストの命を代償として手放してしまうほどの犠牲を払って、私たちが愛し抜いて下さいました。本来地獄の火で焼かれるべき私たちが解放して下さったのです。

神と私たちの関係はしばしば結婚にたとえられます。ところが私たちは、繰り返し夫である

神から目を背け、神ならざるものについていく、いわば不貞を重ねます。本来なら滅ぼされて良いはずですが、旧約聖書を見ると、到底信じられないほど神は忍耐深く、繰り返し神の民であるユダヤ人を赦し、御自分のもとに迎え入れられました。神は変わることなく、今も私たちに對して同じ忍耐を抱いておられます。私たちが繰り返し神に背を向けて歩いて、繰り返し呼びかけ、招き寄せて下さいます。主イエス・キリストは、神と私たちとの関係がもう切り離せないほどに深く結び合わされたものであることをお示しになりました。私たちが神から引き離され、神に捨てられることなどあってはならない、と言われるのです。

誰でも神の約束を信じ、主イエス・キリストを救い主として信じる時、他の何ものも与えることができない永遠の命が与えられます。罪と死から解放されるのです。隣り人に対して怒りを抱き、また自分の正しさだけを主張して争うような場所から解放され、神に愛されている同士として、敵でさえ愛することができるようになるのです。洗礼を受けて神の子とされた者は皆、やがて終わりの日、神の国で一緒に食卓を囲むこととなります。苦手な人も、喧嘩をした人も、神の前で再会することとなります。そうならば、地上にいる間に何とかして和解し、終わりの日を一緒に喜んで迎えることができるようにしたいと思います。何より、主イエスが神との和解を実現して下さいだったので、私たちは神に愛されている者として地上を歩むことができるようになりました。お互いのことを愛し、赦し、受け容れることができます。自分の力では不可能でも、主イエス・キリストが助け主なる聖霊を送って私たちが造り変え、新しい人として歩ませて下さいます。

主は言われます。あなたをまず解放し、命を与えたのは神だ。この神だけを信じて生きて良い。主イエス・キリストはこの解放のために地上に来られました。私たちに命を与えるために十字架の上で死なれました。陰府に下り、復活され、今は天において神のもとで私たちが迎える準備をしておられます。このお方を信じ、このお方が再び来られる日を希望をもって待ち望む者は、その日、全身全霊で本当の解放を味わうことになるのです。その日、その時を、一緒に待ち望みましょう。

(記 説教要約奉仕者)